

























つしん景況レポート

作州地域中小企業景況動向調査 2017. 7～9月期 第23回

【特別調査—中小企業経営と地域との関わりについて】

津山信用金庫は、作州地域内255企業の経営者のご協力のもと、ここに第23回つしん景況レポートを発刊いたします。作州地域の景況感を経営者の皆様方と共有し、皆様方のよきパートナーとして地域の繁栄に努めてまいります。

■概況:7月～9月の業況は晴れ時々曇、10月～12月の見通しも晴れ時々曇■

【地域別天気図】	2016年 7月～9月	2016年 10月～12月	2017年 1月～3月	2017年 4月～6月	今期実績 7月～9月	来期見通し 10月～12月
作州地域全体						
津山鏡野地域						
真庭地域						
美作勝央地域						







●作州地域全体では、今期(2017年7月～9月)の業況判断DIは、前期比9.7ポイント上昇し、プラス15.6となり、4期連続のプラス水準となった。来期(2017年10月～12月)は、プラス29.1と業況感が更に上昇する見通しとなっている。

●地域別には、津山鏡野地域は前期比11.7ポイント上昇し、プラス16.2、真庭地域は前期比10.3ポイント上昇し、プラス24.0、美作勝央地域は前期比2.4ポイント上昇し、プラス4.5となった。来期は、津山鏡野地域プラス22.5、真庭地域プラス44.0、美作勝央地域プラス35.6と全ての地域で景況感が上昇する見通しとなっている。

業況判断DI	前期	今期実績				来期見通し			
		良い	普通	悪い	DI	良い	普通	悪い	DI
作州地域全体	5.9	32.5	50.6	16.9	15.6	36.9	55.3	7.8	29.1
津山鏡野地域	4.5	35.0	46.3	18.8	16.2	33.8	55.0	11.3	22.5
真庭地域	13.7	30.0	64.0	6.0	24.0	44.0	56.0	0.0	44.0
美作勝央地域	2.1	26.7	51.1	22.2	4.5	40.0	55.6	4.4	35.6

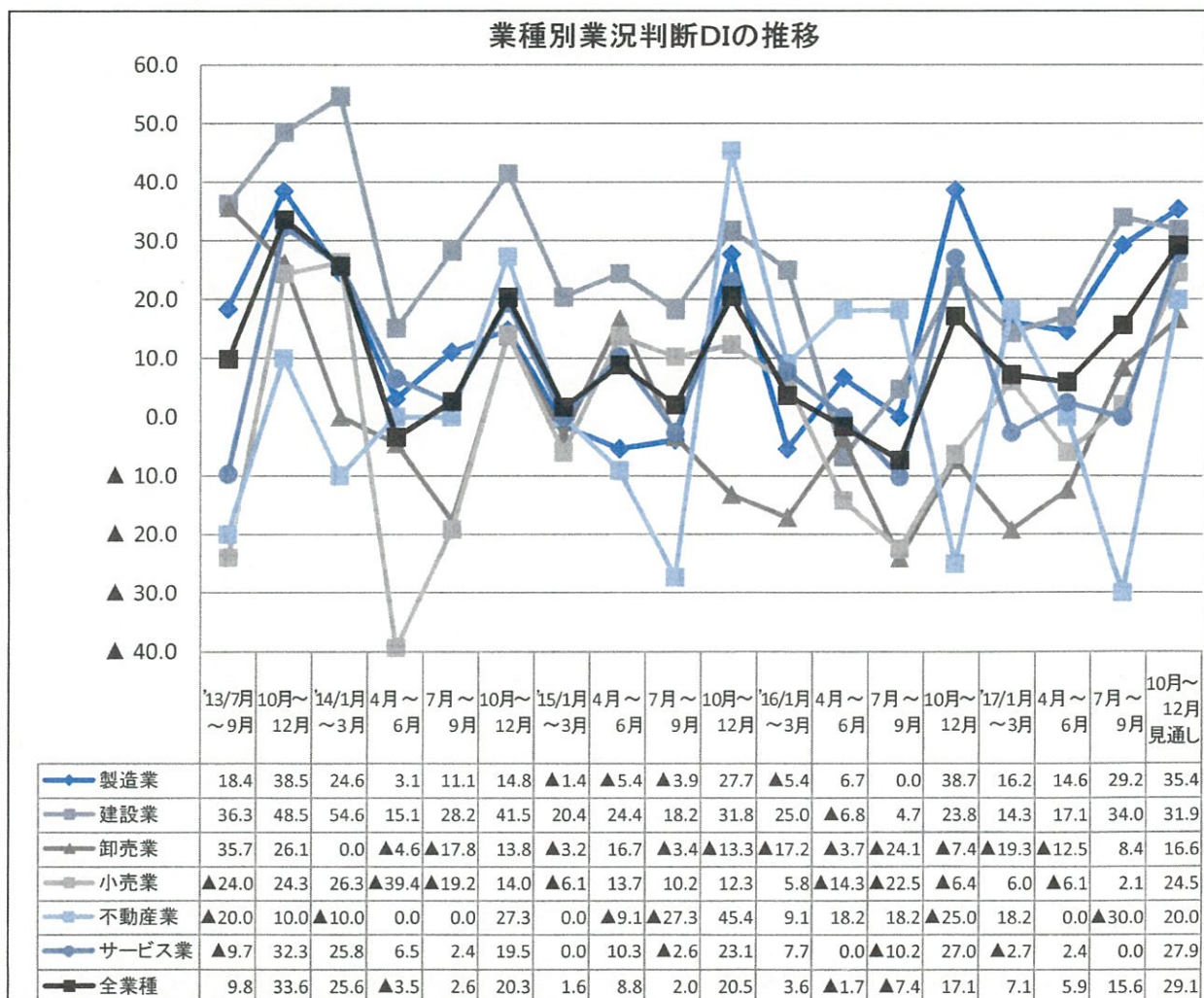
※DIとは、Diffusion Index の略で、「良い(または増加、上昇、楽)」と回答があった企業数の割合(%)から「悪い(または減少、下降、苦しい)」と回答があった企業数の割合(%)を差し引いた値

■天気図のご説明■

DI	30以上	10以上～ 30未満	0以上～ 10未満	▲10以上 ～ 0未満	▲30以上 ～ ▲10未満	▲30未満
天気図						

■全業種総合■

【業種別 天気図】	2016年 7月～9月	2016年 10月～12月	2017年 1月～3月	2017年 4月～6月	今期実績 7月～9月	来期見通し 10月～12月
製 造 業						
建 設 業						
卸 売 業						
小 売 業						
不 動 産 業						
サービ業						
全 業 種						



全業種	前期	今期実績				来期見通し			
DI区分	DI	良い・増加	普通・変らず	悪い・減少	DI	良い・増加	普通・変らず	悪い・減少	DI
業況	5.9	32.5	50.6	16.9	15.6	36.9	55.3	7.8	29.1
売上	▲ 3.1	32.9	46.3	20.8	12.1	43.5	43.9	12.5	31.0
収益	▲ 2.4	28.6	50.2	21.2	7.4	38.8	48.2	12.9	25.9

●業況判断DIは、今期(2017年7月～9月)はプラス15.6となり、前期比9.7ポイント上昇した。来期(2017年10月～12月)見通しはプラス29.1となっている。

●売上判断DIは、今期はプラス12.1となり、前期比15.2ポイント改善した。来期見通しはプラス31.0となっている。

●収益判断DIは、今期はプラス7.4となり、前期比9.8ポイント改善した。来期見通しはプラス25.9となっている。

全業種	前期	今期実績				来期見通し			
DI区分	DI	楽・過剰	変らず・適正	苦しい・不足	DI	楽・過剰	変らず・適正	苦しい・不足	DI
資金繰り	8.3	7.5	86.3	6.3	1.2	6.7	88.2	5.1	1.6
雇用(人手過不足)	▲ 30.3	3.9	54.1	42.0	▲ 38.1	1.6	54.5	43.9	▲ 42.3
設備投資	▲ 9.5	4.5	83.7	11.8	▲ 7.3	3.7	84.9	11.4	▲ 7.7

●資金繰り判断DIは、今期(2017年7月～9月)はプラス1.2となり、前期比7.1ポイント下落した。来期(2017年10月～12月)見通しはプラス1.6となっている。

●人手過不足判断DIは、今期はマイナス38.1となり、前期比7.8ポイント下落した。来期見通しはマイナス42.3となっている。今期のDIおよび「不足」・「やや不足」と回答した企業の割合は、調査開始以来の最低水準であった。来期は更に悪化する見通しとなっている。

●設備投資DIは、今期はマイナス7.3となり、前期比2.2ポイント改善した。来期見通しはマイナス7.7となっている。製造業は、マイナス11.0で全業種平均を下回っており、製造業の約2割の企業から「やや不足」の回答があった。

■製造業■

製造業全般	前期	今期実績				来期見通し			
DI区分	DI	良い・増加	普通・変らず	悪い・減少	DI	良い・増加	普通・変らず	悪い・減少	DI
業況	14.6	39.0	51.2	9.8	29.2	42.7	50.0	7.3	35.4
売上	0.0	40.2	46.3	13.4	26.8	51.2	36.6	12.2	39.0
収益	7.3	36.6	47.6	15.9	20.7	41.5	45.1	13.4	28.1

●製造業の業況判断DIは、今期(2017年7月～9月)は前期比14.6ポイント上昇し、プラス29.2となった。来期(2017年10月～12月)見通しはプラス35.4となっている。

●売上判断DIは、今期はプラス26.8、来期見通しはプラス39.0となっている。

●収益判断DIは、今期はプラス20.7、来期見通しはプラス28.1となっている。

●製造業の内、その他製造業(金属製品製造業、木材・木製品製造業、農林業を除いたもの)の業況判断DIは、今期はプラス27.9、来期見通しはプラス37.2となっている。

●鉄工業者からは、オリンピック関連の特需があり、来年までこの状態が続くのではないかとの声が聞かれた。また、建築資材加工メーカーからは、上場企業からの公共事業案件が多量にあり、業況は良いとの声が聞かれた。

製造業のうち： 金属製品製造業	前期	今期実績				来期見通し			
DI区分	DI	良い・増加	普通・変らず	悪い・減少	DI	良い・増加	普通・変らず	悪い・減少	DI
業況	7.1	42.9	57.1	0.0	42.9	35.7	57.1	7.1	28.6
売上	21.4	35.7	64.3	0.0	35.7	42.9	50.0	7.1	35.8
収益	28.6	35.7	57.1	7.1	28.6	35.7	57.1	7.1	28.6

●金属製品製造業の業況判断D Iは、今期(2017年7月～9月)は前期比35.8ポイントと大幅に上昇し、プラス42.9となった。来期(2017年10月～12月)見通しはプラス28.6となっている。

●売上判断D Iは、今期はプラス35.7、来期見通しはプラス35.8となっている。

●収益判断D Iは、今期はプラス28.6、来期見通しもプラス28.6となっている。

●食品機械製造業者やステンレス加工業者からは、大手機械メーカーからの機械装置部品の大量受注があり、生産が追いついていないとの声があった。

製造業のうち: 木材・木製品製造業	前期	今期実績				来期見通し			
DI区分	DI	良い・増加	普通・変わらず	悪い・減少	DI	良い・増加	普通・変わらず	悪い・減少	DI
業況	21.4	35.7	64.3	0.0	35.7	64.3	28.6	7.1	57.2
売上	0.0	50.0	35.7	14.3	35.7	50.0	42.9	7.1	42.9
収益	0.0	35.7	64.3	0.0	35.7	35.7	57.1	7.1	28.6

●木材・木製品製造業の業況判断D Iは、今期(2017年7月～9月)は前期比14.3ポイント上昇し、プラス35.7となった。来期(2017年10月～12月)見通しはプラス57.2となっている。

●売上判断D Iは、今期はプラス35.7、来期見通しはプラス42.9となっている。

●収益判断D Iは、今期はプラス35.7、来期見通しはプラス28.6となっている。

●大手企業からの発注が多く、大手企業を中心に景気の良さを実感するとの声や、値段が高くて品質の良いものを求める動きがより強くなっているように感じるとの声があった。

製造業のうち： 農林業	前期	今期実績				来期見通し			
DI区分	DI	良い・増加	普通・変らず	悪い・減少	DI	良い・増加	普通・変らず	悪い・減少	DI
業況	0.0	18.2	72.7	9.1	9.1	18.2	72.7	9.1	9.1
売上	▲ 9.1	27.3	63.6	9.1	18.2	45.5	54.5	0.0	45.5
収益	▲ 18.2	27.3	63.6	9.1	18.2	27.3	72.7	0.0	27.3

●農林業の業況判断D Iは、今期(2017年7月～9月)は前期比9.1ポイント上昇し、プラス9.1となった。来期(2017年10月～12月)見通しもプラス9.1となっている。

●売上判断D Iは、今期はプラス18.2、来期見通しはプラス45.5となっている。

●収益判断D Iは、今期はプラス18.2、来期見通しはプラス27.3となっている。

●農業者からは、天候不順により農産物価格が上昇すると見込んでいるとの声があった。一方で、林業者からは、涼しくなって出荷量が増え、木材価格が下落傾向にあるとの声が複数あった。

■建設業■

建設業	前期	今期実績				来期見通し			
DI区分	DI	良い・増加	普通・変わらず	悪い・減少	DI	良い・増加	普通・変わらず	悪い・減少	DI
業況	17.1	40.4	53.2	6.4	34.0	40.4	51.1	8.5	31.9
売上	4.2	38.3	44.7	17.0	21.3	29.8	57.4	12.8	17.0
収益	▲ 2.1	34.0	51.1	14.9	19.1	29.8	59.6	10.6	19.2

●建設業の業況判断D Iは、今期(2017年7月～9月)は前期比16.9ポイント上昇し、プラス34.0となった。来期(2017年10月～12月)見通しはプラス31.9となっている。

●売上判断D Iは、今期はプラス21.3、来期見通しはプラス17.0となっている。

●収益判断D Iは、今期はプラス19.1、来期見通しはプラス19.2となっている。

●住宅建設を除いた建設業の業況判断D Iは、今期はプラス23.3、来期見通しはプラス30.0となっている。

●空調工事やメガソーラー設置に係る造成工事等を受注している企業からは、売上高・利益ともに増加しており、業況が良いとの声が複数聞かれた。

建設業のうち： 住宅建設	前期	今期実績				来期見通し			
		DI区分	DI	良い・増加	普通・変らず	悪い・減少	DI	良い・増加	普通・変らず
業況	18.7	52.9	47.1	0.0	52.9	41.2	52.9	5.9	35.3
売上	18.7	47.1	47.1	5.9	41.2	41.2	47.1	11.8	29.4
収益	12.5	35.3	58.8	5.9	29.4	35.3	58.8	5.9	29.4

●住宅建設業者の業況判断DIは、今期(2017年7月～9月)は前期比34.2ポイントと大幅に上昇し、プラス52.9となった。来期(2017年10月～12月)の見通しはプラス35.3となっている。

●売上判断DIは、今期はプラス41.2、来期見通しはプラス29.4となっている。

●収益判断DIは、今期はプラス29.4、来期見通しもプラス29.4となっている。

●建築工事の年間目標受注量が確保できているやりフォームが好調であるとの声が多数聞かれた。今期の業況が悪いと回答した企業は、1社もなかった。

■卸売業■

卸売業	前期	今期実績				来期見通し			
DI区分	DI	良い・増加	普通・変らず	悪い・減少	DI	良い・増加	普通・変らず	悪い・減少	DI
業況	▲ 12.5	29.2	50.0	20.8	8.4	20.8	75.0	4.2	16.6
売上	0.0	29.2	58.3	12.5	16.7	37.5	41.7	20.8	16.7
収益	4.1	25.0	58.3	16.7	8.3	29.2	50.0	20.8	8.4

●卸売業の業況判断DIは、今期(2017年7月～9月)は前期比20.9ポイントと大幅に改善し、プラス8.4となった。来期(2017年10月～12月)見通しはプラス16.6となっている。

●売上判断DIは、今期はプラス16.7、来期見通しもプラス16.7となっている。

●収益判断DIは、今期はプラス8.3、来期見通しはプラス8.4となっている。

●仕入価格の値上げ分を価格転嫁できたとの声や建材販売が良かったとの声が複数聞かれた。また、産学連携で新商品開発に取り組んでいるとの声も聞かれた。

■小売業■

小売業	前期	今期実績				来期見通し			
DI区分	DI	良い・増加	普通・変らず	悪い・減少	DI	良い・増加	普通・変らず	悪い・減少	DI
業況	▲ 6.1	28.6	44.9	26.5	2.1	34.7	55.1	10.2	24.5
売上	▲ 8.2	28.6	46.9	24.5	4.1	51.0	34.7	14.3	36.7
収益	▲ 12.3	24.5	51.0	24.5	0.0	46.9	38.8	14.3	32.6

●小売業の業況判断DIは、今期(2017年7月～9月)は前期比8.2ポイント改善し、プラス2.1となった。来期(2017年10月～12月)見通しはプラス24.5となっている。

●売上判断DIは、今期はプラス4.1、来期見通しはプラス36.7となっている。

●収益判断DIは、今期はゼロ、来期見通しはプラス32.6となっている。

●通信販売業者からは、配送費が上昇し収益を圧迫しているとの声があった。食品販売業者からは、来店客が今までより1ランク上の良い商品を購入する傾向があるとの声も聞かれた。

小売業のうち： 自動車小売業	前期	今期実績				来期見通し			
DI区分	DI	良い・増加	普通・変らず	悪い・減少	DI	良い・増加	普通・変らず	悪い・減少	DI
業況	▲ 7.2	14.3	57.1	28.6	▲ 14.3	42.9	50.0	7.1	35.8
売上	▲ 35.7	21.4	50.0	28.6	▲ 7.2	57.1	21.4	21.4	35.7
収益	▲ 42.9	21.4	42.9	35.7	▲ 14.3	57.1	28.6	14.3	42.8

- 自動車小売業の業況判断DIは、今期(2017年7月～9月)は前期比7.1ポイント下落し、マイナス14.3となり、2期連続でマイナス水準になった。来期(2017年10月～12月)見通しはプラス35.8となっている。
- 売上判断DIは、今期はマイナス7.2、来期見通しはプラス35.7となっている。
- 収益判断DIは、今期はマイナス14.3、来期見通しはプラス42.8となっている。
- 大型店、ネット販売業者等の台頭により競争激化している。最近では、同じ車種でもグレードや程度の良い高価格帯のものが売れる傾向があるとの声が聞かれた。

■不動産業■

不動産業	前期	今期実績				来期見通し			
DI区分	DI	良い・増加	普通・変らず	悪い・減少	DI	良い・増加	普通・変らず	悪い・減少	DI
業況	0.0	10.0	50.0	40.0	▲ 30.0	30.0	60.0	10.0	20.0
売上	▲ 27.3	10.0	30.0	60.0	▲ 50.0	30.0	60.0	10.0	20.0
収益	▲ 27.3	10.0	30.0	60.0	▲ 50.0	30.0	60.0	10.0	20.0

- 不動産業の業況判断DIは、今期(2017年7月～9月)は前期比30.0ポイントと大幅に下落し、マイナス30.0となった。来期(2017年10月～12月)見通しはプラス20.0となっている。
- 売上判断DIは、今期はマイナス50.0、来期見通しはプラス20.0となっている。
- 収益判断DIは、今期はマイナス50.0、来期見通しはプラス20.0となっている。
- 真庭地区のアパート需要は若年層を中心に旺盛であり、立地条件良好な新築物件は稼働率が高いとの声や、東一宮や鏡野地区での分譲地の売れ行きが良いとの声が複数あった。

■サービス業■

サービス業	前期	今期実績				来期見通し			
DI区分	DI	良い・増加	普通・変らず	悪い・減少	DI	良い・増加	普通・変らず	悪い・減少	DI
業況	2.4	23.3	53.5	23.3	0.0	34.9	58.1	7.0	27.9
売上	▲ 7.3	25.6	44.2	30.2	▲ 4.6	41.9	51.2	7.0	34.9
収益	▲ 7.3	18.6	53.5	27.9	▲ 9.3	41.9	48.8	9.3	32.6

- サービス業の業況判断DIは、今期(2017年7月～9月)は前期比2.4ポイント下落し、ゼロとなった。来期(2017年10月～12月)見通しはプラス27.9となっている。
- 売上判断DIは、今期はマイナス4.6、来期見通しはプラス34.9となっている。
- 収益判断DIは、今期はマイナス9.3、来期見通しはプラス32.6となっている。
- B'zのコンサート時にはタクシー利用が多かったことで、B'zのコンサートなどの大型イベントを毎年開催して欲しいとの声があった。

サービス業のうち： 医療福祉業	前期	今期実績				来期見通し			
DI区分	DI	良い・増加	普通・変らず	悪い・減少	DI	良い・増加	普通・変らず	悪い・減少	DI
業況	▲ 10.0	8.3	83.3	8.3	0.0	0.0	91.7	8.3	▲ 8.3
売上	▲ 30.0	16.7	58.3	25.0	▲ 8.3	25.0	66.7	8.3	16.7
収益	▲ 20.0	8.3	66.7	25.0	▲ 16.7	25.0	58.3	16.7	8.3

- 医療福祉業の業況判断DIは、今期(2017年7月～9月)は前期比10.0ポイント上昇し、ゼロとなった。来期(2017年10月～12月)見通しはマイナス8.3となっている。
- 売上判断DIは、今期はマイナス8.3、来期見通しはプラス16.7となっている。
- 収益判断DIは、今期はマイナス16.7、来期見通しはプラス8.3となっている。
- 企業との提携や県南病院との連携および県北クリニックとの地域内連携を進めている。また、来年度は医療・介護同時に保険制度の改正年度であり注視しているとの声が複数あった。

■ 昨年同期比較売上高・収益 ■

昨年同期比較売上高DI				
業種別	増加	変らず	減少	DI
製造業	42.7	40.2	17.1	25.6
建設業	38.3	36.2	25.5	12.8
卸売業	33.3	33.3	33.3	0.0
小売業	32.7	34.7	32.7	0.0
不動産業	20.0	40.0	40.0	▲ 20.0
サービス業	37.2	32.6	30.2	7.0
総計	37.3	36.5	26.3	11.0

昨年同期比較販売価格DI				
業種別	増加	変らず	減少	DI
卸売業	20.8	79.2	0.0	20.8
小売業	14.3	75.5	10.2	4.1
総計	16.4	76.7	6.8	9.6

昨年同期比較収益DI				
業種別	増加	変らず	減少	DI
製造業	37.8	45.1	17.1	20.7
建設業	34.0	42.6	23.4	10.6
卸売業	33.3	41.7	25.0	8.3
小売業	22.4	53.1	24.5	▲ 2.1
不動産業	20.0	40.0	40.0	▲ 20.0
サービス業	27.9	32.6	39.5	▲ 11.6
総計	31.4	43.5	25.1	6.3

- ① 昨年同期（2016年7月～9月）比較売上高DIは、全業種ではプラス11.0となった。
 ② 昨年同期比較収益DIは、小売業、不動産、サービス業でマイナスとなったが、全業種ではプラス6.3となった。
 ③ 昨年同期比較販売価格DIは、卸売業プラス20.8、小売業プラス4.1となった。

■ 販売価格 ■

販売価格DI	前期	今期実績				来期見通し			
業種別	DI	上昇	変らず	下降	DI	上昇	変らず	下降	DI
製造業	▲ 6.1	11.0	85.4	3.7	7.3	12.2	82.9	4.9	7.3
建設業	▲ 2.1	8.5	85.1	6.4	2.1	8.5	85.1	6.4	2.1
卸売業	8.4	16.7	83.3	0.0	16.7	12.5	87.5	0.0	12.5
小売業	▲ 10.2	12.2	81.6	6.1	6.1	18.4	77.6	4.1	14.3
不動産業	▲ 9.1	0.0	80.0	20.0	▲ 20.0	10.0	90.0	0.0	10.0
サービス業	2.5	4.7	93.0	2.3	2.4	11.6	88.4	0.0	11.6
総計	▲ 3.5	9.8	85.5	4.7	5.1	12.5	83.9	3.5	9.0

- 今期の販売価格DIは、全業種でプラス5.1となった。来期見通しは、全業種でプラス9.0となっている。卸売業では、今期来期ともに販売価格が「やや下降」・「下降」と回答する企業はなかった。

■ 仕入価格 ■

仕入価格DI	前期	今期実績				来期見通し			
業種別	DI	上昇	変らず	下降	DI	上昇	変らず	下降	DI
製造業	11.0	22.0	76.8	1.2	20.8	11.0	86.6	2.4	8.6
建設業	27.7	14.9	85.1	0.0	14.9	8.5	91.5	0.0	8.5
卸売業	20.8	16.7	79.2	4.2	12.5	16.7	83.3	0.0	16.7
小売業	8.1	18.4	77.6	4.1	14.3	24.5	71.4	4.1	20.4
不動産業	▲ 9.1	0.0	90.0	10.0	▲ 10.0	0.0	100.0	0.0	0.0
サービス業	4.9	11.6	86.0	2.3	9.3	9.3	90.7	0.0	9.3
総計	12.6	16.9	80.8	2.4	14.5	12.9	85.5	1.6	11.3

- 今期の仕入価格DIは、全業種でプラス14.5となった。来期見通しは、全業種でプラス11.3となっている。
 ● 不動産業では、前期の見通し（ゼロ）と異なり今期実績がマイナスとなったため、11期連続でマイナス水準となったが、来期は「やや下降」・「下降」と回答する企業はなかった。

■在庫■

在庫DI	前期	今期実績				来期見通し			
業種別	DI	過剰傾向	適正	不足傾向	DI	過剰傾向	適正	不足傾向	DI
製造業	2.4	12.2	82.9	4.9	7.3	7.3	89.0	3.7	3.6
建設業	4.3	4.3	93.6	2.1	2.2	4.3	95.7	0.0	4.3
卸売業	12.5	4.2	87.5	8.3	▲ 4.1	0.0	100.0	0.0	0.0
小売業	6.1	14.3	75.5	10.2	4.1	10.2	81.6	8.2	2.0
不動産業	▲ 27.3	10.0	30.0	60.0	▲ 50.0	0.0	50.0	50.0	▲ 50.0
総計	3.3	9.9	81.6	8.5	1.4	6.1	88.2	5.7	0.4

●在庫DIは、今期は全業種で8割超が適正と回答し、全業種でプラス1.4となった。来期見通しは、全業種で約9割が適正と回答し、全業種でプラス0.4となっている。

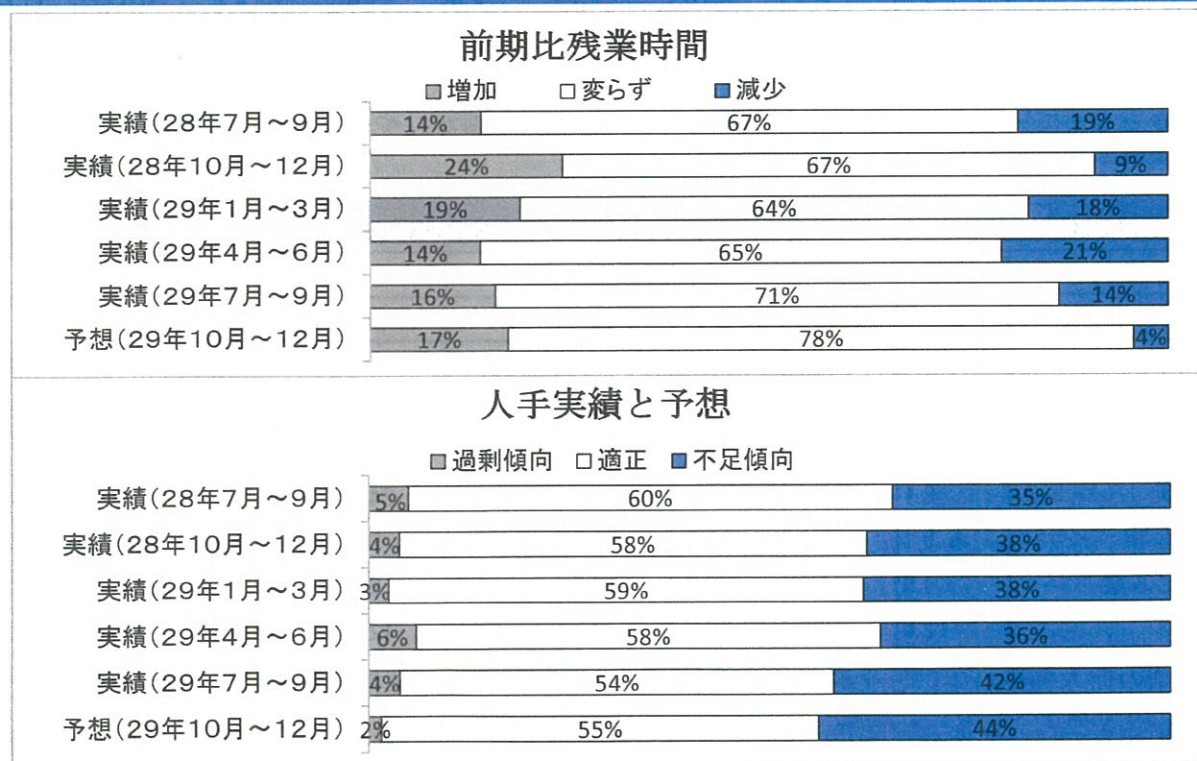
■受注残■

受注残DI	前期	今期実績				来期見通し			
業種別	DI	増加	変らず	減少	DI	増加	変らず	減少	DI
製造業	▲ 4.9	37.8	56.1	6.1	31.7	43.9	46.3	9.8	34.1
建設業	0.0	38.3	48.9	12.8	25.5	31.9	55.3	12.8	19.1
総計	▲ 3.1	38.0	53.5	8.5	29.5	39.5	49.6	10.9	28.6

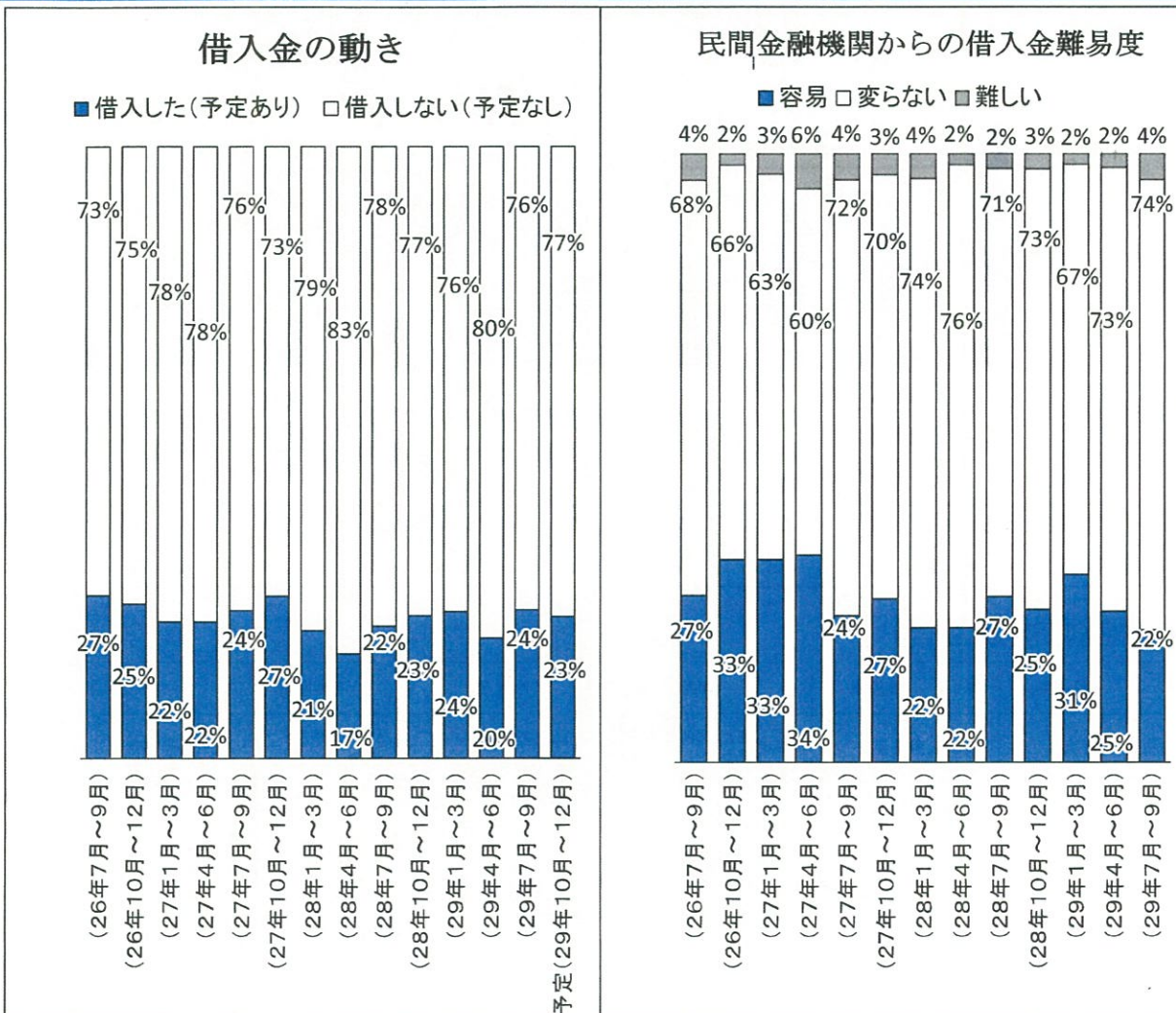
●製造業の受注残DIは、今期は前期比36.6ポイントと大幅に上昇し、プラス31.7となり、プラス水準に回復した。来期見通しは、プラス34.1となっている。

●建設業の受注残DIは、今期は前期比25.5ポイント上昇し、プラス25.5となった。来期見通しは、プラス19.1となっている。

■雇用面の動き■



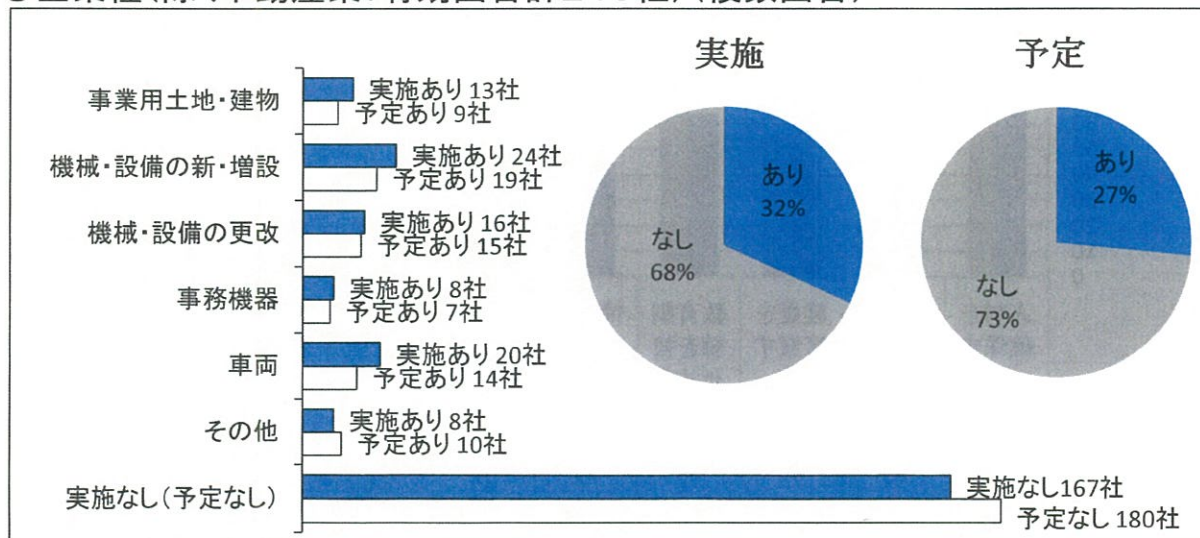
■借入金の動き・難易度■



● 2016年1月にマイナス金利政策が導入されたが、借入をした企業の割合は、今期(29年7月～9月) 24%と依然として低い水準となっている。また、借入の難易度は、『容易』と回答した企業の割合が前期比3%下落し、22%となり、『難しい』は前期比2%上昇し、4%となっている。

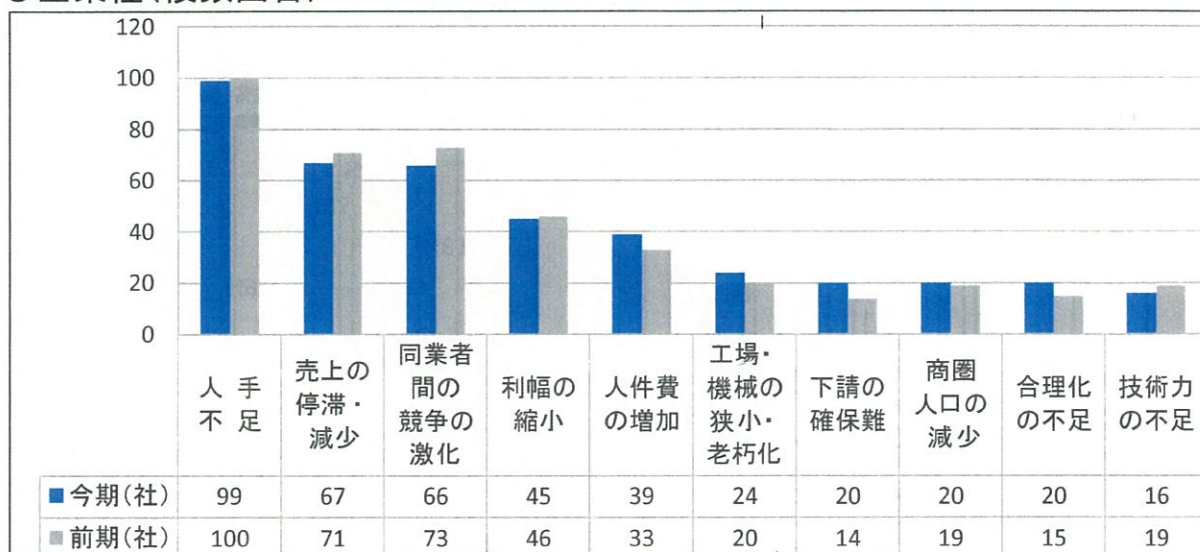
■設備投資の実施(29年7月～9月)と予定(29年10月～12月)■

● 全業種(除く不動産業:有効回答計245社)(複数回答)



■ 経営上の問題点 ■

● 全業種(複数回答)

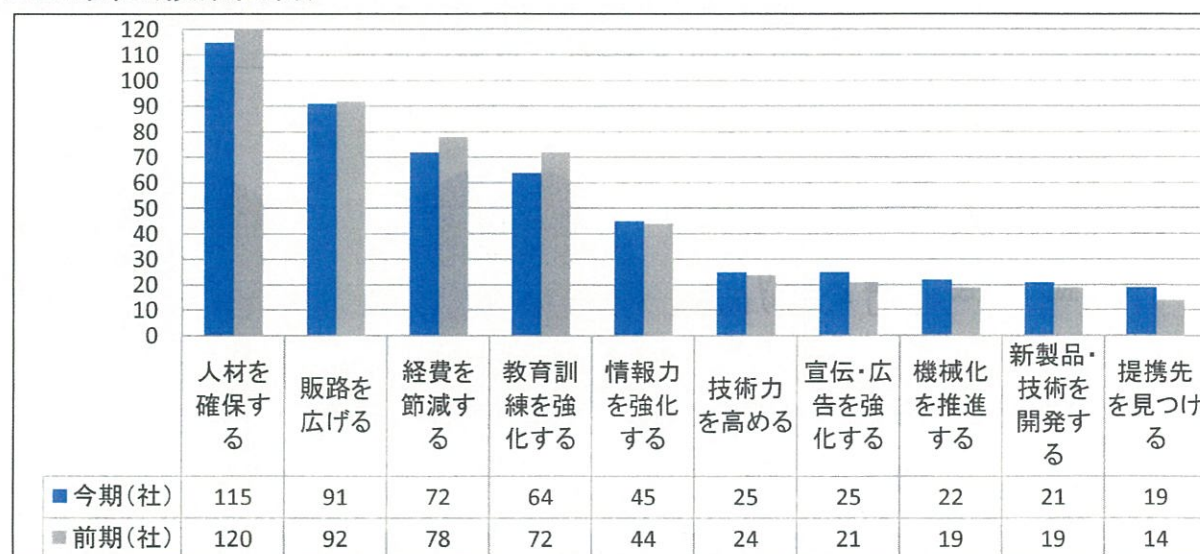


● 業種別(複数回答)

	製造業	%	建設業	%	卸売業	%	小売業	%	不動産業	%	サービス業	%
1位	人手不足	18.1	人手不足	19.4	売上の停滞・減少	14.0	売上の停滞・減少	15.5	売上の停滞・減少	22.7	人手不足	26.0
2位	工場・機械の狭小・老朽化	13.2	同業者間の競争の激化	14.6	利幅の縮小	14.0	同業者間の競争の激化	13.8	商品物件の不足	22.7	売上の停滞・減少	12.5
3位	同業者間の競争の激化	9.9	売上の停滞・減少	10.7	同業者間の競争の激化	12.0	商圏人口の減少	12.9	利幅の縮小	18.2	人件費の増加	12.5
4位	原材料高	8.2	下請の確保難	8.7	人手不足	10.0	人手不足	10.3	人手不足	9.1	同業者間の競争の激化	9.6
5位	売上の停滞・減少	7.1	技術力の不足	8.7	取引先の減少	10.0	利幅の縮小	8.6	大手企業との競争の激化	9.1	技術力の不足	6.7

■ 当面の重点経営施策 ■

● 全業種(複数回答)



●業種別(複数回答)

	製造業	%	建設業	%	卸売業	%	小売業	%	不動産業	%	サービス業	%
1位	販路を広げる	20.1	人材を確保する	20.8	販路を広げる	26.3	人材を確保する	16.4	情報力を強化する	19.0	人材を確保する	25.9
2位	人材を確保する	17.2	技術力を高める	20.0	情報力を強化する	15.8	教育訓練を強化する	14.7	新しい事業を始める	14.3	販路を広げる	13.9
3位	経費を節減する	13.7	販路を広げる	14.4	経費を節減する	8.8	宣伝・広告を強化する	12.9	宣伝・広告を強化する	14.3	教育訓練を強化する	12.0
4位	新製品・技術を開発する	10.3	経費を節減する	12.8	人材を確保する	8.8	経費を節減する	10.3	販路を広げる	9.5	経費を節減する	9.3
5位	情報力を強化する	8.8	情報力を強化する	11.2	提携先を見つける	7.0	店舗・設備を改装する	10.3	提携先を見つける	9.5	技術力を強化する	9.3

■調査員の調査コメントから■

○今期(29年7月～9月期)の業況判断D Iは、前回見通しプラス16.2とほぼ同じプラス15.6となった。大企業からの受注の多い製造業と公共工事・民間工事が底堅く推移している建設業に牽引され、卸売業と小売業もプラス水準となった。来期(29年10月～12月)の業況判断D Iは、「悪い」・「やや悪い」と回答した企業の割合が調査開始以来最低水準の7.8%となり、10月～12月期では過去最高のプラス29.1となっている。

○製造業と建設業の受注残D Iでは、今期受注残が「やや減少」・「減少」と回答した企業の割合は、過去最低水準の8.5%となっている。金属製品製造業、木材木製品製造業、農林業、住宅建設では「やや減少」・「減少」と回答した企業はなかった。

○人材不足に対応するための取組みとして、残業なし等の働き方改革や外国人を雇用する動きが見られ、以下のような声が聞かれた。

- ・有給休暇日数を105日から113日に変更した。(製造業)
- ・閉店時間を早めて残業を少なくした。(小売業)
- ・パートの勤務時間を指定せず、申告制で都合のいい時間に出社できるようにした。(製造業)
- ・外国人留学生を採用するために学校訪問等の活動を始めた。(製造業)
- ・タイ人、ベトナム人、インドネシア人を採用した。(建設業、小売業、医療福祉)
- ・工場内に保育所を開設したり、保育料の手当を支給している。(サービス業)
- ・事前に従業員の意向を聞き取り、転勤を拒否すると異動をさせない。(建設業)

○販路拡大については、岡山県産業振興財団等を通して、台湾、韓国、シンガポールなどの東南アジアへ販路を伸ばしたいとの声や、都会での販路拡大に積極的な投資をしていきたいのでクラウドファンディングによる設備投資を検討しているとの声が聞かれた。

○天候不順の影響や消費者の節約志向から観光客の減少を指摘する声が複数あった。特に、「湯郷地区の売上はかなり厳しい状況が続いている」との声が複数あった。一方で、真庭地区では、「バイオマス発電所のツアー客が増加している。香港、台湾、ブラジル、ペルー等からの外国人が多く訪れている。」との声があった。

■調査要領■

1. 調査対象

当金庫営業エリア内の中小企業

2. 調査時期

2017年8月21日～9月7日

3. 調査方法

当金庫職員による訪問聞き取り調査

4. 分析方法

D Iを中心に分析

5. 季節変動について

業況判断D Iは、毎年1～3月期に低下し、4～6月期に上昇するという季節的な変動(季節変動)がありますが、当金庫の分析においては季節変動の調整(季節調整)は行っておりません。

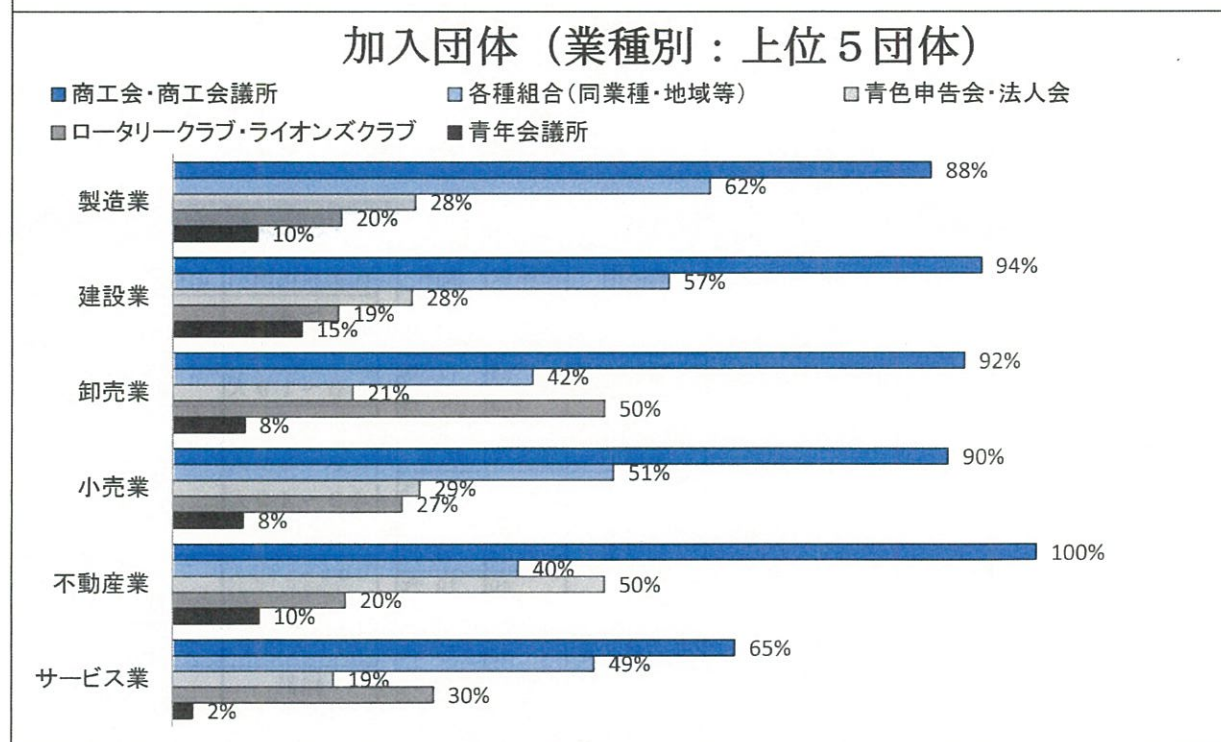
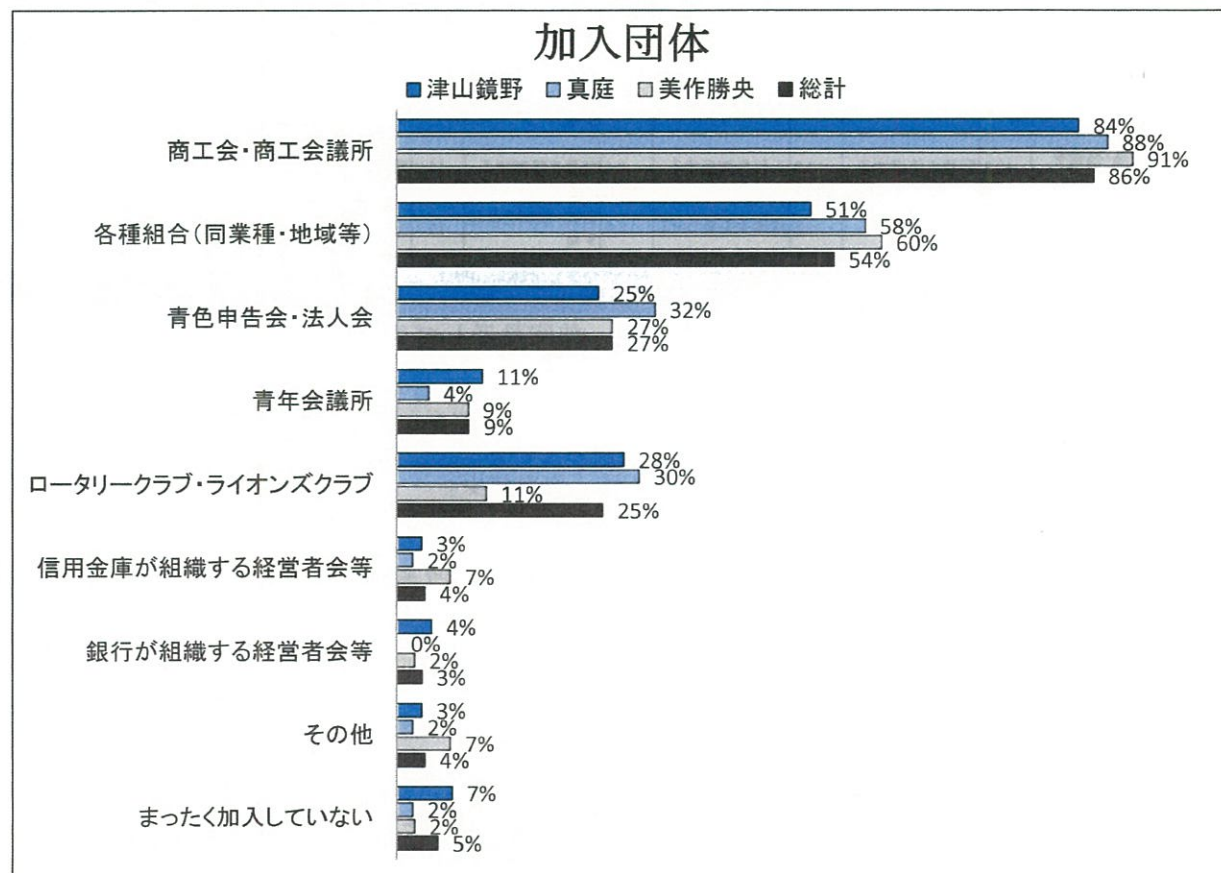
※ 本レポートは、標記時点における情報提供を目的としています。
また、掲載資料は正確性・安全性を保証するものではありません。

■調査対象■

地区別	企業数	比率	従業員規模別	企業数	比率
津山鏡野地域	160	62.7%	1～4人	40	15.7%
真庭地域	50	19.6%	5～9人	68	26.7%
美作勝央地域	45	17.6%	10～19人	61	23.9%
総計	255	100.0%	20～29人	29	11.4%
業種別	企業数	比率	30～39人	14	5.5%
製造業	82	32.2%	40～49人	15	5.9%
建設業	47	18.4%	50～99人	13	5.1%
卸売業	24	9.4%	100～199人	11	4.3%
小売業	49	19.2%	200～300人	3	1.2%
不動産業	10	3.9%	301人以上	1	0.4%
サービス業	43	16.9%	総計	255	100.0%
総計	255	100.0%			

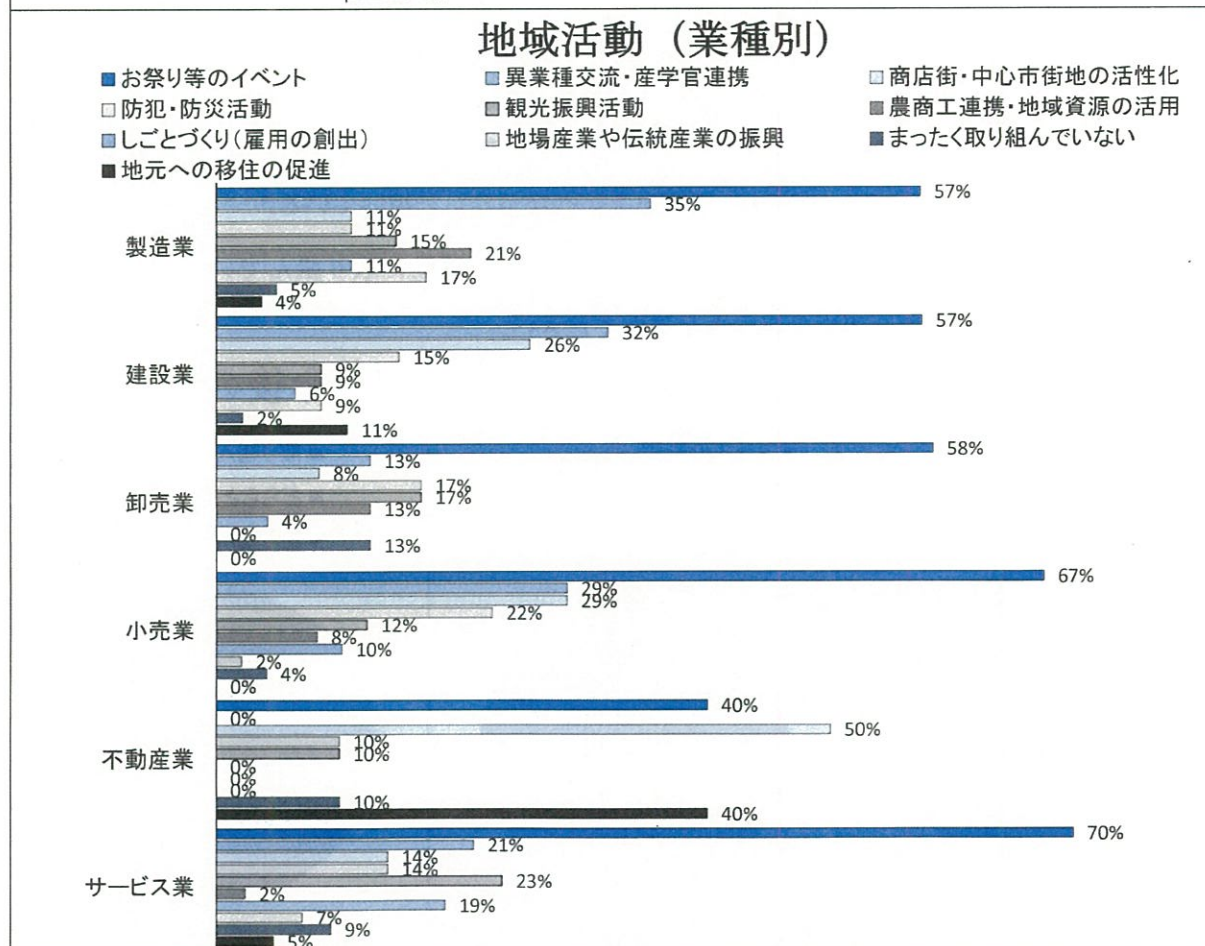
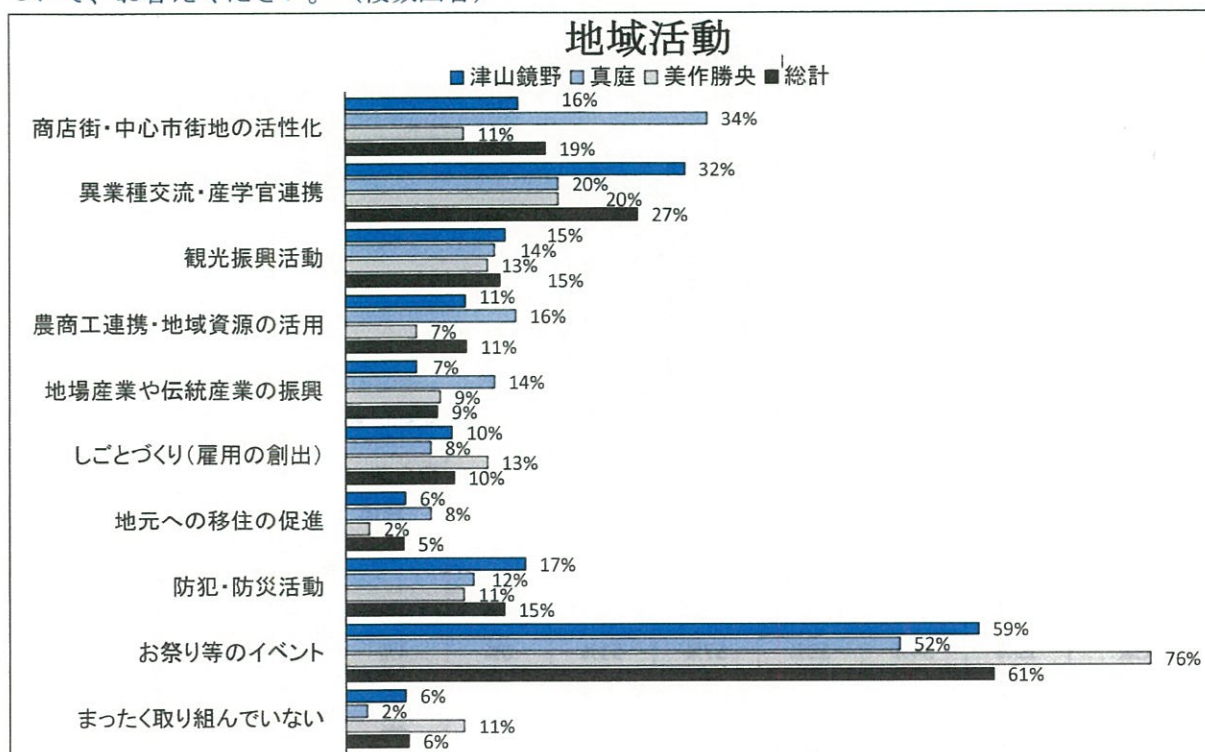
☆☆☆ 特別調査 ☆☆☆
特別調査-「中小企業経営と地域との関わりについて」

問1. 各種団体等に参加していますか。(複数回答)



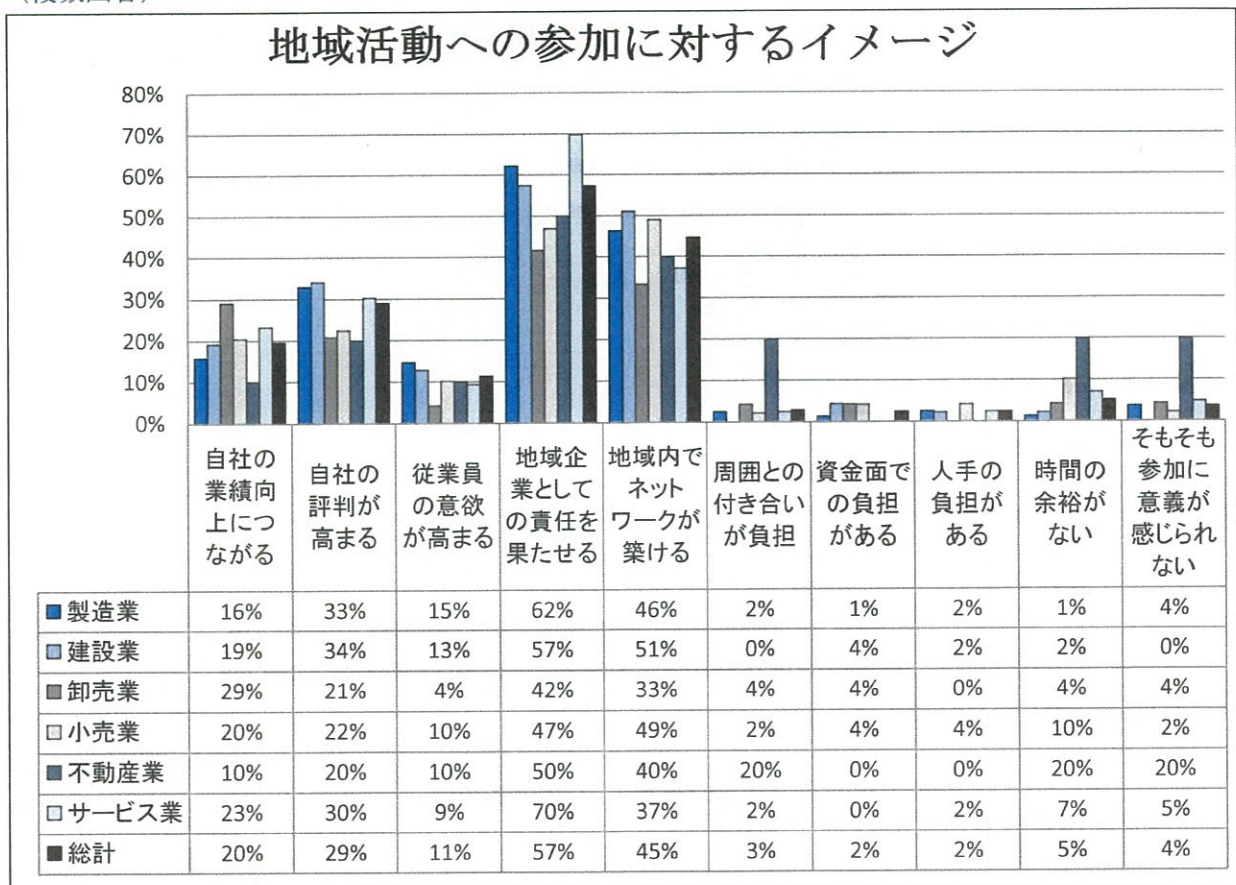
- 「商工会・商工会議所」が全ての地域と業種で最も多くなっている。
- 製造業、建設業、小売業、サービス業で「各種組合」が、卸売業で「ロータリークラブ・ライオンズクラブ」が、不動産業で「青色申告会・法人会」がそれぞれ2番目となっている。

問2. 地域経済との関わりのなかで取り組んでいる、あるいは協力・協賛している地域での活動について、お答えください。（複数回答）



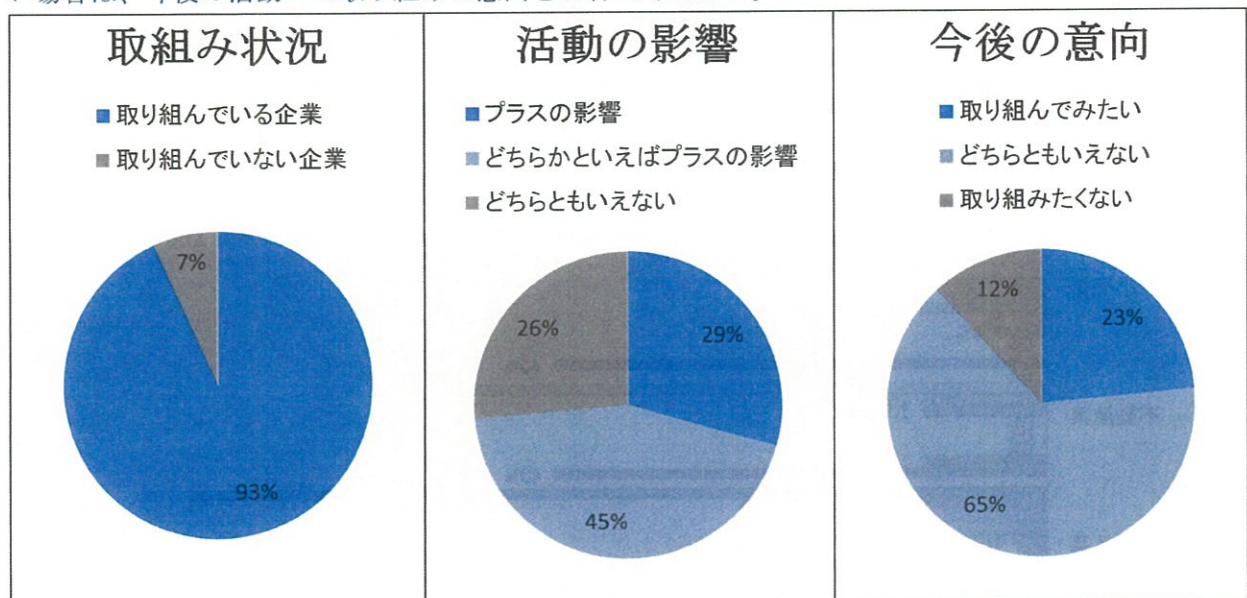
●「お祭り等のイベント」が、全ての地域で最も多くなっている。「お祭り等のイベント」は、業種別には、不動産を除く業種で最も高くなっている。不動産は「商店街・中心市街地の活性化」が最も多くなっている。

問3. 問2に挙げたような各種地域活動への参加に対して、どのようなイメージをお持ちですか。
(複数回答)



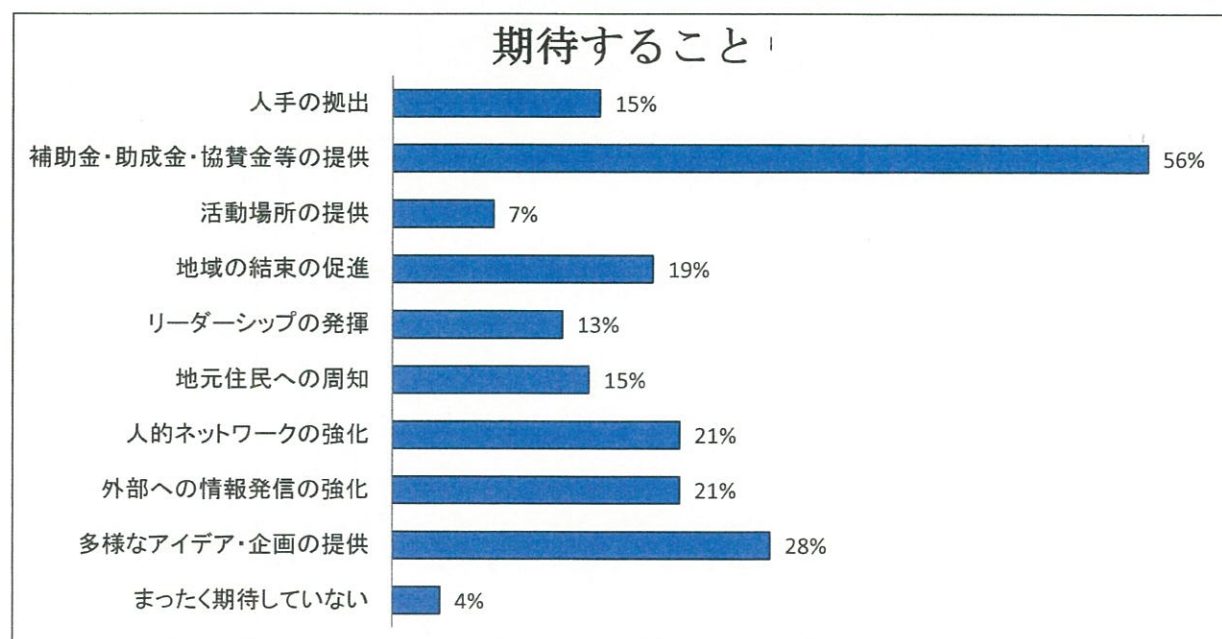
●全ての業種で「地域企業としての責任を果たせる」が最も多く、「地域内でネットワークが築ける」「自社の評判が高まる」「自社の業績向上につながる」と続いている。

問4. 問2で挙げたような各種地域活動について、何らかの活動に取り組んでいる場合は、その活動が自社の経営あるいは事業に及ぼしている影響をお答えください。また、活動に取り組んでいない場合は、今後の活動への取り組みの意向をお答えください。



- 地域活動に取り組んでいる企業は、93%となっている。
- 地域活動に取り組んでいる企業の74%が、プラスの影響を感じている。
- 地域活動に取り組んでいない企業の23%が、今後取り組むことを考えている。

問5. 今後、地域での各種活動がさらに活発化していくために、地元自治体や地域金融機関に期待することはありますか。（複数回答）



●「補助金・助成金・協賛金等の提供」が最も多く、「多様なアイデア・企画の提供」「人的ネットワークの強化」「外部への情報発信の強化」「地域の結束の促進」と続いている。

（参考）訪日外国人の推移

※日本政府観光局（JNTO：Japan National Tourism Organization）統計データを基に当金庫作成

（単位：人）

地域別	2013年		2014年		2015年		2016年		2013年比	2013年比増減率
アジア計	8,115,789	78%	10,819,211	81%	16,645,843	84%	20,428,866	85%	12,313,077	152%
ヨーロッパ計	904,132	9%	1,048,731	8%	1,244,970	6%	1,421,934	6%	517,802	57%
アフリカ計	26,697	0%	28,336	0%	31,918	0%	33,762	0%	7,065	26%
北アメリカ計	981,981	9%	1,112,317	8%	1,310,606	7%	1,570,420	7%	588,439	60%
南アメリカ計	49,930	0%	56,873	0%	74,198	0%	77,958	0%	28,028	56%
オセアニア計	284,886	3%	347,339	3%	429,026	2%	505,638	2%	220,752	77%
無国籍・その他	489	0%	660	0%	848	0%	1,122	0%	633	129%
総数	10,363,904	100%	13,413,467	100%	19,737,409	100%	24,039,700	100%	13,675,796	132%

（アジアの内訳）	2013年		2014年		2015年		2016年		2013年比	2013年比増減率
韓国	2,456,165	24%	2,755,313	21%	4,002,095	20%	5,090,302	21%	2,634,137	107%
中国	1,314,437	13%	2,409,158	18%	4,993,689	25%	6,373,564	27%	5,059,127	385%
台湾	2,210,821	21%	2,829,821	21%	3,677,075	19%	4,167,512	17%	1,956,691	89%
香港	745,881	7%	925,975	7%	1,524,292	8%	1,839,193	8%	1,093,312	147%
タイ	453,642	4%	657,570	5%	796,731	4%	901,525	4%	447,883	99%
シンガポール	189,280	2%	227,962	2%	308,783	2%	361,807	2%	172,527	91%
マレーシア	176,521	2%	249,521	2%	305,447	2%	394,268	2%	217,747	123%
インドネシア	136,797	1%	158,739	1%	205,083	1%	271,014	1%	134,217	98%
フィリピン	108,351	1%	184,204	1%	268,361	1%	347,861	1%	239,510	221%
ベトナム	84,469	1%	124,266	1%	185,395	1%	233,763	1%	149,294	177%
インド	75,095	1%	87,967	1%	103,084	1%	122,939	1%	47,844	64%
その他アジア	164,330	2%	208,715	2%	275,808	1%	325,118	1%	160,788	98%
アジア計	8,115,789	78%	10,819,211	81%	16,645,843	84%	20,428,866	85%	12,313,077	152%

●2016年訪日外国人の総数は24百万人となり、2013年に比べ13百万人増加（132%増）している。中でも、中国、韓国、台湾、香港は100万人を超える増加となっている。増加率では、中国、フィリピンやベトナムが著しく上昇している。

作州地域の活性化応援信用金庫



岡山県津山市山下30-15
0868-22-4121
地域創生部
(担当：杉山、岡部)